

平成 30 年度

第 2 回 磐田市文化財保護審議会 報告

- 1 日時 平成 31 年 3 月 11 日(月)13:30～16:00
- 2 場所 磐田市埋蔵文化財センター 2 階 研修室
- 3 出席者 磐田市文化財保護審議会委員 9 名
平野吾郎会長 小杉達副会長 芹澤拙夫委員
日比野秀男委員 増田千次郎委員 鈴木敬雄委員
坪井俊三委員 中山正典委員 西田かほる委員
事務局 8 名
村松教育長・秋野教育部長・高梨文化財課長・村松課長補佐
兼管理グループ長・木村歴史文書館長・竹内主幹兼調査グループ長・佐口主査・谷口主任
- 4 傍聴人 1 名
- 5 議事

【審議事項】

①文化財保護法改正に伴う文化財保存活用地域計画について

〔事務局からの説明〕

・平成 31 年 4 月 1 日より文化財保護法改正が施行される。文化財行政の役割が保護保全から活用が変わってきたことを受け、市が文化財保存活用地域計画を策定できるようになった。文化庁に認定されると、登録文化財の推薦や、重要文化財建造物の現状変更等届出の規制緩和のほか、補助事業として優先的に採択されたり、補助金の上限が上がるなどのメリットがある。

・すでに磐田市には、平成 26 年 3 月に策定した「磐田市文化財保護基本構想」がある。このとき、地域ごとの文化財の洗い出しをしているので、これに指定未指定にかかわらず、観光客の目を引くようなストーリーを付けて計画を策定する。

・今年度、文化財保存活用大綱を県が策定するので、これを踏まえて磐田市でも協議会を設置し、地域計画を策定していく。

〔主な質問・意見〕

・保護法改正にともない、「文化財保護の事務は教育委員会の所管とされているが、条例により地方公共団体の長が担当できるようにする」、とあるが、磐田市は市長部局に移管される予定はあるか？

- ない。今までどおり、文化財保護行政は教育委員会の所管。
- ・文化財保護行政と観光部門の連携が取れるとよい。
- ・文化庁の補助金を活用するだけでなく、切り口を変えて、国交省や経産省の補助金も活用するとよい。

【報告事項】①豊岡の遠州大念仏指定について

〔事務局からの説明〕

- ・平成 30 年 8 月開催の当審議会で指定答申された案件について、9 月 27 日開催の定例教育委員会で議案第 44 号として承認され、9 月 28 日告示となった。
- ・指定記念事業として、10 月 27 日豊岡中央交流センターにて、指定書交付式および磐田の遠州大念仏を語る会を開催。110 名の参加があった。

〔主な質問・意見〕

- ・大念仏の継承者や市民のみなさんに集まってもらって指定書交付式と語る会を開催したことは、いつ廃絶してもおかしくない無形民俗文化財にとってその価値を多くの人に知らせることができたので、素晴らしいことだと思った。

②文化遺産総合活用事業について

〔事務局からの説明〕

- ・文化庁の補助事業として掛塚祭全体の映像記録と、有形民俗文化財に指定されている大当町の屋台修理の記録を行った。成果品として掛塚祭編、屋台修理編、竹馬編、お囃子編を 4 枚の DVD に記録した。5 分にまとめた短縮版を磐田市ホームページで公開する。

③加茂大念仏映像記録撮影業務について

〔事務局からの説明〕

- ・日本芸術文化振興会助成金採択事業として実施。加茂大念仏編、歌枕編、蟬しぐれの盆編を 3 枚の DVD に記録した。3 分の短縮版を磐田市ホームページで公開する。

④旧見付学校附磐田文庫の台風被害

〔事務局からの説明〕

- ・台風 24 号で、外壁漆喰の崩落 6 箇所、5 階の雨樋一部破損、玄関屋根一部破損、磐田文庫外壁の漆喰崩落 1 箇所の被害。
- ・11 月議会にて補正予算を計上し承認され、磐田文庫の外壁と見付学校 5 階の雨樋は修理済み。現在見付学校の外壁修理実施中。年度末には完了予定。

〔主な質問・意見〕

- ・軒が深くないので雨や風が当たりやすく、傷みやすい。年度ごとの修繕計画を立てるべき。

→今後修繕の計画を建てるために、現状の調査を今年度から2年かけて行い、その後計画を策定する予定。

⑤遠江国分寺跡整備事業について

〔事務局からの説明〕

・平成29年度に基本設計、30年度に実施設計1年目として、盛土、配線・配管の実施設計を行った。5月に文化庁に行き基本設計の説明をしたところ、厳しい指導があった。その後開催した整備委員会でも、不備を指摘されたため、今年度、整備専門委員会を5回実施し、指摘事項の検討を行った。

・主な指摘事項は、基壇の構造、復元予定の灯籠のデザイン、盛土の高さ、照明設備、樹木整理。

・磐田南高校、磐田農業高校の生徒代表から、整備について意見を聞いた。

・発掘調査成果としては、塔跡の現存する礎石以外の柱跡が検出された。

・畦畔と呼ばれる国有無番地について、財務省から市に譲渡してもらう手続きを進めている。今後、特別史跡の追加指定をする。

・指定地内未買収地の公有地化を実施。

〔主な質問・意見〕

・国分寺は特別史跡になっているが、遺構の残りは悪く整備するにあたってデータが少ない。木製灯籠の復元は前例がなく全国初めての事例。事務局は大変だが後世に残るものを作ってほしい。

⑥阿多古山一里塚整備事業について

〔事務局より説明〕

・危険木伐採、斜面保護、駐車スペース確保、転落防止柵設置、見学ルート整備を実施。

・工事中の立会いで、一里塚の断面を観察し記録。炭化物、鎌倉時代の哺乳類の骨、鏡等が出土。一里塚の築造前、鎌倉時代に何かしらの構造物があり、同じ場所に江戸時代になって一里塚が作られたと考えられる。

⑦県指定「善導寺大クス」について

〔事務局より説明〕

・ヒコバエの切除実施。土壌入れ替え2年目。

〔芹澤委員より補足〕

・昨年度から土壌入れ替えを実施中。土に空気を送り込んでほぐしながら、排水不良の粘土層を1mの深さまで堆肥を入れた優良土と入れ替える。さらに通気孔のパイプを入れる。

・昨年度実施済箇所の根の吸収根が出だして、状態が良くなっていることを確認。

〔主な質問・意見〕

・天然記念物というが、土壌改良などによって樹形が変わってしまうのではないか。天然といいながら、人工の樹形にならないか。

→〔芹澤委員より〕それはない。根が伸びやすい場所を探しているが粘土層が固く下へ伸びることができないため、地下の土壌改良を行った。改良が全て終われば根が今までの容積の3倍の量になると見込める。

・図面に2019、2020、2021年と書いてあるが、あと3年やる予定なのか。

→〔芹澤委員より〕2年実施済み。残り3年、全部で5年計画。本来は東西交互にやるが、場所がないため、広いところを優先して計画した。

⑧文化財啓発事業実績、⑨文化財調査実績について

〔事務局より説明〕

・今年度普及啓発新規事業の紹介。9月23日に新豊院山古墳群見学会を実施。参加者100名。10月～12月に旧見付学校、旧赤松家で「みんなの絵」絵画コンクール実施。71名参加。

・文化財調査実績として、日比野委員による秋鹿家竹尻籠収納箱修理立会い、坪井委員による長江崎遺跡発掘調査指導、芹澤委員による善導寺大クス土壌改良工事指導を報告。